DAIKO GROUP

2018 大幸グループ CSR報告書

持続可能な世界、安全な未来のために
For Sustainable world & Secure future

【お問い合わせ先】
大幸グループ CSR 事務局
〒559-0025　大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002

■携帯電話からのアクセス
e-mail:sea-mew@daiko-group.com
右のバーコードを対応端末で読みとっていただければ、直接サイトにアクセスできます。
http://www.daiko-group.com/

弊社は暴力団等反社会的勢力との取引は一切行いません　（ホームページ掲載）

VEGETABLE OIL INK
この印刷物は環境に配慮した「ベジタブルインキ」で印刷されています。

2019.01.1000

大幸グループのビジョン

大幸グループの事業拠点・プラントは、大阪湾岸に位置する大阪市住之江区の南港地区、堺市の臨海堺港地区に展開しています。事業運営の要である大幸工業株式会社・本社と、車輌センター、建設現場、各プラントが緊密に連携し合い、環境型社会の形成に尽力しています。産業廃棄物の適正処理、再生土「ポリアース」、流動化処理土「ポリソイル」の製造、リサイクル商品を活用した造成事業をも手掛け、循環型社会の構築に貢献。また、地域・行政・多様な企業・従業員といったステークホルダーの皆様とのコミュニケーションに重きを置き、融和・共栄に向けて邁進しています。

土を変える。

大幸グループは 90 年代初頭から、建設汚泥をリサイクルした再生土「ポリアース」、流動化処理土「ポリソイル」などの製品及びシステムを開発し、循環型社会づくりに貢献してきました。

環境を創造する。

リサイクル事業の豊富な経験とノウハウを生かし、再生資源の「創り手」として造成まで手掛ける一貫体制を整備。社会の要請に応じた資源循環型共同プロジェクトに取り組んでいます。

地域社会と融合する。

地域に愛され、地域と共に歩む事業グループとして、道路清掃美化活動への参加、再生土を利用した寄せ植え教室、地元中学の職場体験学習受け入れなど多様な活動に取り組んでいます。

Top Message

事業を永続し、従業員を守っていくために「災害に強い」大幸グループを目指します。

災害の頻発で BCP の大切さを痛感

2018年の日本は、6月18日の大阪府北部を襲った地震をはじめ西日本を中心に甚大な被害をもたらした豪雨、次々と上陸した猛烈な台風、さらに北海道胆振東部地震と災害が相次ぎました。被災されました皆さまには謹んでお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧とご健康を心よりお祈りいたします。

大幸グループにおきましても、9 月 4 日に近畿を直撃した台風 21 号により発生した南港地区の大規模な停電で南港処理センターが約 6 日間にわたって操業できない状況が続き、お客様に多大なご迷惑をお掛けしました。あらためてお詫び申し上げます。

私たちの廃棄物処理・リサイクル業界は血液の循環に例えて「静脈産業」と言われます。静脈が止まってしまうと動脈の流れも止まってしまい、製造業や建設業などの「動脈産業」の事業活動に多大な影響を与えます。

大幸グループでは、以前から地震や台風など予期せぬ災害に備えた BCP（Business Continuity Plan＝事業継続計画）に取り組んできました。台風 21 号が大阪を襲来した当日もグループ全社による大規模な防災訓練を予定していましたが、訓練ではなく実践となりました。そうした備えのおかげで、台風による直接的な被害は最小限に留めることができました。自然災害に遭遇しても損害を最小限に留め、早期に復旧して事業を継続し、お客様の事業活動を支える BCP がいかに大切かを痛感しました。

南海トラフ地震の津波に備えた避難ビルを新設

自然災害のリスクを回避するには、防災訓練などの教育や計画も大切ですが、それらのソフト的な対策は、建物の耐震化などハード面が整備されていなければまさに“砂上の楼閣”になってしまいます。

大幸グループのプラントや本社社屋の建物は、阪神淡路大震災級の大地震にも対応する耐震性を備えるとともに、ポンプなどの重要設備は常に予備機を安全な場所に確保し、万が一の災害に備えています。さらに、2018 年 11 月に南海トラフ地震に備えて「大幸グループ津波避難ビル兼 車輌センター」（仮称）の新築工事に着手しました。

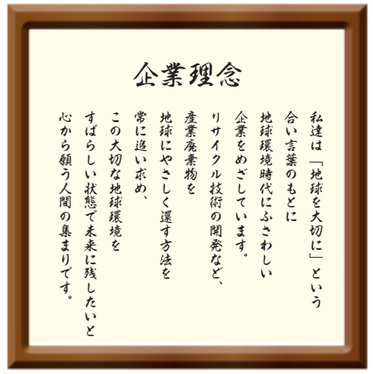
台風のように事前に予測される災害では、車両を安全な場所に退避させることが可能ですが、突然襲ってくる地震ではそうした対応ができません。万が一、津波で多くの車両が流されるような事態になれば、大幸グループは事業の継続が難しくなります。

新築する車輌センターは、想定される南海トラフ地震の津波から車両を守るとともに、地域の住民の皆さんの津波避難ビルとしての役割も果たし、従業員と地域の皆さまを守る砦となります（車輌センターの新築については、5～6ページで詳細を紹介しています）。

従業員を守るための前向きな投資を進めていく

災害に備えたハード面の整備には巨額の資金が必要になります。来るか来ないか分からない災害に備えるよりも、生産力の増強などに資金を投じた方が良いという考え方もあるでしょう。

しかし、大幸グループのもっとも大切な財産である従業員の皆さんを守っていくためには、どんな災害があっても事業を継続していくことが必要です。そのための投資だと考えれば、これは前向きな投資です。車輌センターの新設に留まらず、停電に備えた自家発電設備の整備など、今後も災害に備えた投資を積極的に進めていきます。



また、今回の台風や豪雨の要因として、地球温暖化による気候変動が挙げられています。事業を永続していくうえで、地球環境の保全は企業として取り組まなければならない大きな課題です。

大幸グループでは国連サミットで採択された SDGs（Sustainable Development Goals＝持続可能な開発目標）に積極的に取り組み、これからも安全・安心な事業運営を心掛け、地域の発展に貢献し、循環型社会のトップランナーとして日本の発展と地球環境の保全に貢献していきます。どうか一層のご指導、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

大幸工業株式会社　代表取締役
大阪ベントナイト事業協同組合　代表理事
浜野　廣美

特集1

従業員と地域の皆さまを風水害から守り 事業を継続する、BCP の拠点を建設

大幸グループの中核施設がある大阪市住之江区では、南海トラフ巨大地震、大和川の氾濫などにより、津波浸水の発生が予想されています。従業員および車両・設備を守り、事業継続によって顧客の事業活動を支えると共に、企業市民として地域の皆さまの安全に寄与するため、「大幸グループ津波避難ビル兼車輌センター（以下「避難ビル」）」を建設します。

「避難ビル」の完成予想図。大型立体駐車場、自家給油所、整備工場、事務所棟を備えた 24 時間対応の車輌センターで、津波発生時は近隣の避難場所となる

自治体・地域との協定による「津波避難ビル」指定に向けて

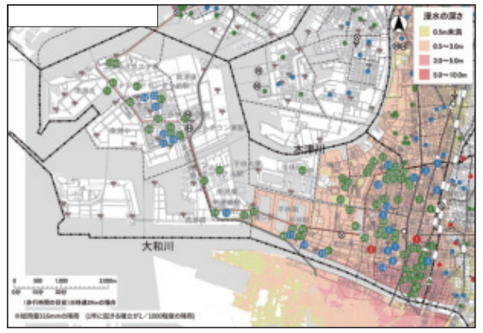
住之江区では、南海トラフ巨大地震が発生すると、約 5m の津波が 110 分後に到達すると予想されています。また、台風や集中豪雨などによる大和川の氾濫も想定されています。大幸グループは BCP の拠点施設となる「避難ビル」を新設するため、2018 年 10 月より車輌センターの移転準備を開始、2019 年 12 月の完成を目指しています。

大規模な浸水時に、小学校などの災害時避難所が遠ければ、近隣の皆さん、特に高齢者や障害者の方々は避難に時間が掛かると予想されます。地域の方々が少しでも早く高い場所へ避難できるよう、自治体により、一時避難用の「津波避難ビル」指定制度が設けられています。大幸グループの「避難ビル」は住之江区・地域と三者協定を締結し、指定を受けるべく準備を進めています。

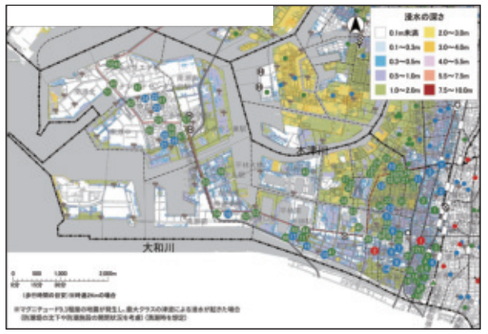
平常時の大和川（阪堺電軌阪堺線大和川駅付近）

2018 年、大雨の影響で危険水位に達した大和川

大和川が氾濫した場合



南海トラフ巨大地震が発生した場合（津波）



大阪市住之江区ホームページより

防災機能をより一層強化し「災害に強い」大幸グループへ

これまでも、大幸グループでは阪神大震災クラスの地震に対応する耐震対策を南港処理センターに施すほか、ポンプやモーターなどの重要設備を安全な場所にストックするなど、危機管理に努めてきました。

新たに建設する「避難ビル」は、地下 30mの支持層に百余本の杭を根入れし、車輌センターの階高 7mを確保。緊急時には、同センターの屋上施設と、事務所棟3階を津波避難場所として使用します。フルトレーラ、ブロア車など重量車対応のスロープと躯体、外付け階段などが避難時に力を発揮します。トイレには車いす対応の個室も用意する予定です。

一時的な避難場所ではありますが、浸水が長引くことも想定し、非常用トイレ凝固剤、アルミブランケット、携帯充電器、非常食なども準備します。

住之江区防災パートナー登録制度に賛同

大阪ベントナイト事業協同組合は、災害時に地域住民・行政機関と連携し、災害対策に必要な協力を行う「住之江区防災パートナー」に登録。共助の理念に基づき、地域防災力の向上と、災害に強いまちづくりに貢献します。

KTK 防災対策実行委員会発足

「避難ビル」建設を機に、大阪ベントナイト事業協同組合 環境対策協議会（KTK）では、地盤工学を研究する大阪大学教授・乾 徹氏を委員長とした「KTK 防災対策実行委員会」を発足。2018 年 11 月 6 日に第 1 回防災訓練（22 ページで詳細を紹介）を実施しました。今後、地域住民合同訓練も視野に入れ、実践的な防災活動を展開していきます。

特集2

一人ひとりが、高い社会貢献意識を備え、日々成長できる職場環境を目指して

循環型社会のトップランナーとして、健全経営・事業継続に取り組み、社会に貢献することが、大幸グループ CSR の基本です。その基盤として、従業員一人ひとりが働きやすい職場環境づくりを進め、意欲向上や成長を促す人材育成・福祉など社内制度の整備に取り組んでいます。次代を担う若手社員に、CSR に対する意識の在り方や、職場環境について語ってもらいました。

運輸部ドライバー
プロアーチームリーダー
大倉 隆伸

強力吸引ホースを備えたブロアー車を運転しています。吸引するとき、現場にこぼさない、自分にもかからないよう気を付け、運んで無害にする。やりがいのある仕事ですね。職場の雰囲気がよく、先輩でも特別偉そうにしません。トラックの運転業務で毎晩帰宅できる職場環境は貴重です。
（平成 27 年入社）

運輸部ドライバー
髙元　潤

一般の人があまり知らない産業廃棄物の運搬を経験し、再生・循環の仕組みを実感できる仕事です。入社後、プラント研修を体験するので全体の流れがよく理解できます。表彰制度があり、努力がきちんと評価されるから、やる気があって、運転好きの人には適した職場だと思います。
（平成 30 年入社）

運輸部ドライバー
浦部 竜一

ときには長距離も走行しますが、現場をきれいにして帰社し、事務所で「おつかれさま」の声を聞くと、しみじみとやりがいを感じますね。僕らの健康に配慮して無理のない勤務シフトを準備してくれるし、休暇は可能な範囲で、希望日に合わせて調整してもらえるので助かります。
（平成 28 年入社）

運輸部ドライバー
加井 彰人

ブロアー担当の乗務員が何台か車両を連ね、1 つの現場を協力して仕上げることもあります。良いチームワークができていて、働きやすい職場環境ですね。初めての現場を訪ねるときは、先輩に注意事項を聞いて、リスクを回避します。恵まれた人間関係は、安全確保にもつながります。
（平成 28 年入社）

運輸部整備担当
中戸 久男

車両の調整や修理、法定 3 カ月点検、1 年ごとの車検を担当。普通車とは違った専門的な整備なので、頭をフル回転していろんなケースに対応することが必要です。溶接技術を身につけるなど、日々スキルを磨いています。地域と触れ合える清掃活動や、社内の焼肉大会も楽しみです。
（平成 28 年入社）

営業部課長
岩渕 一之

製造会社など企業系の営業を担当し、ご相談・ご発注からプラント受け入れまで顧客関連業務を広く手掛けています。お客様に喜んでいただき、次世代にキレイな地球を引き継ぐ、達成感ある仕事です。常に新しい知識や情報が必要なので、積極的に研修・講習に参加しています。
（平成 22 年入社）

営業部
宮本 大智

建設系の営業マンとして顧客に応対し、現場への飛び込み営業も行っています。業界での知名度が高く営業しやすい会社であること、自分で目標値を決めて仕事を進められるのも魅力です。リサイクルは日本の潮流となっており、自分の仕事が直接的に社会に役立つのが嬉しいですね。
（平成 29 年入社）

総務部兼購買部係長
森田 直樹

人事・労務、工場関係で使用する薬品の単価交渉から重機に至る購入交渉まで、幅広く受け持つ「縁の下の力持ち」を目指しています。近隣や区役所の方々が、顔を見ると声を掛けてくださるのは、社会・地域貢献、福利厚生に力を入れている会社のおかげです。少しでもより良い会社にしていきたいです。
（平成 26 年入社）

堺プラント
小路 優

流動化処理土「ポイソイル」の製造・出荷を管理し、製品の品質を均等に保つことに注力しています。上司は人間的に温かく、後輩はかわいくてしょうがない（笑）。思い切り意見を言い合える職場です。機会がないと自分では受けない人間ドックの補助制度もありがたいですね。
（平成 26 年入社）

技術開発部
和田 昌樹

最近、放流水に含まれる重金属類の濃度基準は厳しくなっています。その基準値よりも大幅に低く、ゼロに近づくよう技術を開発。分析結果を評価し、社会に生かす仕事を志望していたので、確かな手応えを感じています。高い処理能力が顧客に喜ばれ、環境のためにもなっています。
（平成 28 年入社）

南港処理センター
今村 政和

主に廃酸・廃アルカリの中和処理を行い、厳密に ph を調整していきます。工場へ入ってきたものを無害にして外へ出す、社会貢献度の高い仕事。機器類の操作だけでなく、重機の運転や積み込みなど幅広い業務を手掛け、資格取得を含めていろんな経験を積めるのがいいですね。
（平成 26 年入社）

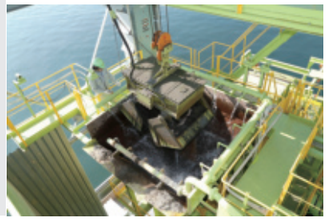
グループを挙げ、新たな地平を目指して

大幸グループの事業拠点・プラントは、海上輸送に直結した湾岸、埋立地に直接再生土を打ち込める立地等、効率化と品質を追及した陣容になっています。

また、各プラントをつなぐ輸送路と通信・運用の制御を徹底し、グループの総合力が発揮される体制を整備しています。

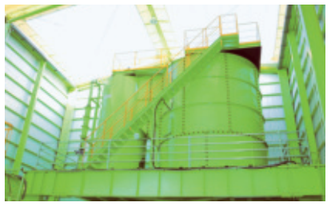
南港処理センター

汚泥・廃酸・廃アルカリの中間処理と再資源化を行う施設。
2014（平成 26）年に全面リニューアルし、新施設として稼動しました。
[1993(平成 5)年・地方優良事業所表彰、1995(平成 7)年・優良事業所表彰、2002（平成 14）年・ISO9001 及び ISO14001 認証取得]



堺プラント

埋め戻し材として利用される流動化処理土「ポリソイル」の製造と、がれき類の破砕・篩別及び建設汚泥の分級を行うほか、再生土「ポリアース」の保管施設を持ち、陸上・海上輸送の中継機能も果たしています。
[2002(平成 14)年・ISO9001 及び ISO14001 認証取得、1995（平成 7）年・優良産廃処理業者認定]



泉プラント

泉第 2 プラントは、建設汚泥を固化処理する中間処理施設。泉第3プラントは、盛り土用途の再生土「ポリアース」を製造するリサイクル施設です。
[2002(平成 14) 年・ISO9001 及び ISO14001 認証取得]

車輌センター

約 80 台の産業廃棄物収集運搬用登録車両を保有し、自家給油所を設置。
全車両に排気ガス対策規制車を用い、デジタルタコメーターを搭載しています。

南港東プラント

阪神高速大和川線シールド工事の発生土を再生処理し、貯木場の埋立資材として2017年５月まで提供。

実績

輝く未来、緑豊かな環境のために

大幸グループでは、環境負荷の少ない廃棄物処理方法を追求するだけでなく、資源循環システムの構築を目指し、リサイクル技術の開発及びリサイクルシステムの提案、リサイクル製品を活用した土地の造成に取り組んでいます。

回収した汚泥やがれき類等は、それぞれ南港処理センターや泉・堺プラントに運んで適正な処理を行います。

また、泉・堺プラントでは建設汚泥をリサイクルし再生土「ポリアース」、流動化処理土「ポリソイル」など、高品質な製品として販売。

このように回収から製造に至る一貫システムを整えています。

リサイクル

建設汚泥	建設汚泥	がれき類

中間処理

再生処理	流動化及び分級	破砕

製　造

再生土（ポリアース）	流動化処理土（ポリソイル）再生砂	再生砕石

産業廃棄物適正処理

汚泥 廃酸 廃アルカリ	建設汚泥（泥水）	建設汚泥（泥土）

中間処理

中和脱水処理	固化処理

排水処理

下水道放流	埋立処分場	埋立処分場

地域に寄り添い、地域と供に歩む

環境にやさしい都市開発を支え、環境保全・災害対策に資することで、人々の暮らしを守るリサイクル事業。

地域の理解、信頼、パートナーシップなくして実現は不可能であり、長年にわたり地道で着実な地域活動に努めてきました。当地における地域活動のリーダー的存在として、今後も、関連企業・行政・地域社会が一体となった貢献活動を推進していきます。

寄せ植え教室

大幸グループが製造したエコリサイクル土の品質、優れた再資源化技術とその源となる熱意を地域の方々に理解していただき、環境への思いを共有するために、エコリサイクル土を使った寄せ植え教室を開催しています。寄せ植え実習の後は、参加者の皆さんと、大幸グループスタッフがテーブルを囲み、お茶とお菓子を楽しみながら懇親会を行います。2011年（平成23年）から、住之江区の平林福祉会館にて毎年開催し、地域の恒例イベントとして親しまれています。

第15回寄せ植え教室

住民一体型の清掃イベントを継続的に実施し、意識を向上

KTK 道路清掃美化キャンペーン

大幸グループが中心となって取り組んでいる KTK 道路清掃美化キャンペーン（環境対策協議会〈KTK〉主催）は、2004 年（平成 16 年）にスタートし、毎年 400 人超が参加する大規模な地域イベントに成長しました。

2018 年 10 月 14 日に開催した第 15 回目は、台風 21 号などの影響で例年の 2 倍以上にあたる、2 t トラック 10 台分ものゴミを回収。大幸グループ・KTK のスタッフ・家族と、大阪市港湾局、住之江区、さざんか平林協議会、平林こども会など自治体・地域の皆さんが心をひとつにして、美しく快適なまちづくりに貢献しました。この活動は、子どもたちの環境教育の場ともなっています。

参加人数 **423 名**

開催に伴い、浜野廣美会長が挨拶

みらいちゃん

だいちくん

路肩の清掃作業

回収ゴミ量 2tトラック **10 台分**

作業終了後は車輌センターにおいて交流会を開き、有志が提供する焼きそばなどを食べながら、捨てられるゴミの多さや、ゴミに対する自分の意識などを話し合います。子供達は、そうした内容を感想文として描き、大幸グループに提出してくれます。

作業終了後の交流会（車輌センター）

感想文を書く子供達

子供達の感想文

【参加した子ども達の感想文】 ※一部抜粋

- いっぱいゴミをあつめられてうれしかった（8 歳）
- まちがキレイになっていくのを見てうれしい気持ちになりました。家に帰っても、遊んだあとにゴミを拾いたいなと思いました。（12 歳）
- たのしかった。いろいろなごみをみつけた。木の中（茂み）にごみがあった。またやりたいです。（6 歳）
- ゴミをいっぱいひろえて良かったです !!　町がきれいになった気がして良かった。意外と楽しかった。（9 歳）

循環経済新聞
The Recycling Economy Times
11月5日 №1417
道路清掃活動に423人参加
大阪ベントナイト事業協同組合
「街がきれいになって嬉しい」

循環経済新聞
《2018 年 11 月 5 日》

環境新聞
道路清掃美化キャンペーンを開催
KTK、地域と協力、子供たち含め 423 人が参加

環境新聞
《2018 年 10 月 24 日》

職場体験学習

大幸グループでは、2014（平成 26）年から中学生の社会的自立の基盤づくりとなる職場体験を受け入れています。対象は、大幸工業本社の近隣地域に位置する大阪市立新北島中学校の生徒たちです。今年度は、車輌センターで保有するベッセル車（29 台）とダンプ車（4 台）の違いを学習。ベッセル車は水密性が高く、運搬中に廃棄物の水分が分離しても、こぼれないことを確認しました。

また、大型車の死角を学ぶため、ベッセル車に試乗。そのほか、再生土を使った泥だんご作りや、書類整理をはじめとする事務作業を体験し、2 日間の日程を終えました。

次代を担う生徒が、職場体験により環境事業を理解する機会にもなっています。

インターンシップ

未来を担う学生・生徒に、大幸グループが取り組む豊かで安全なまちづくりと環境保全への思いを理解してもらう機会として、また実地研修を通じて環境への思いを共有し、将来的に私たちと強いパートナーシップで結ばれることを期待して、積極的にインターンシップを導入、近畿大学の学生を受け入れています。 単なる就業体験に留まらず、環境･社会･地域を広く学び、大幸グループとの連帯感を育む交流の場ともなっています。

盆踊り大会

大幸グループの本拠地、住之江区の平林南町会主催で毎年開催される夏の盆踊り大会に、グループの社員とその家族が積極的に参加し、大会を盛り上げています。また、盆踊りに欠かせない夜店の運営にも協力。かき氷や焼き鳥、焼きそば屋台のスタッフとして活躍し、地域と一体になって楽しく過ごしています。

住之江区子ども会育成連合協議会 体育事業後援

地域の子どもたちの体力向上、健康な育成を目的とする住之江区子ども会育成連合協議会体育事業に賛同し、企業市民として後援を行っています。同事業は積極的かつ活発に行われており、大幸グループもソフトボール大会、キックベースボール大会の開会式などに出席し、がんばる子どもたちの育成を応援しています。

新北島中学校吹奏楽部へ楽器を寄付

住之江区平林地域の祭典で例年、楽器演奏を披露している大阪市立新北島中学校の吹奏楽部。高額な楽器の購入負担をなくし、情操を育むクラブ活動を存続するため、大幸工業株式会社が楽器一式を寄付しました。これに対し、2018 年 3 月に社会福祉法人大阪市住之江区社会福祉協議会より感謝状を受領しました。

住之江区社会福祉協議会から感謝状を受ける

学生と幼児の食育活動に向けた改良土寄付に感謝状

相愛大学人間発達学部へ、2017 年に改良土の寄付を行いました。改良土は、教師を目指す学生と地元の子どもたちが、野菜を栽培する畑の用土として、現在も使用されています。このプログラムは、学生と子供が共に土に触れ、野菜を育て、収穫して食べる、という一連の流れの中で、食育について学ぶもの。プログラムへの理解と改良土寄付に対し、2018 年 3 月、学校法人相愛学園から感謝状を受領しました。

畑で育てたサツマイモ

相愛学園より感謝状を受領

「資源循環型共同プロジェクト」が地盤工学会賞を受賞

阪神高速道路の大和川線事業から発生する大量の建設汚泥を、大阪市の土地造成に再生利用した、全国初の「資源循環型共同プロジェクト」。この事業を手掛けた大阪ベントナイト事業協同組合が、関連組織・研究者と共に、公益社団法人地盤工学会の地盤環境賞に輝き、2018年６月に表彰を受けました。

事例名称は「100 万㎥クラスの大規模・再生活用事業を対象とし，新たに強化・構築したＥＴＣ車両認証による電子マニフェストを活用した，建設汚泥統合管理システムを開発・運営した『資源循環型共同プロジェクト』モデル事例」。

阪神高速道路（株）、
阪神高速技術（株）、
（一財）関西環境管理技術センター、
東洋建設（株）、（一財）地域地盤環境研究所、京都大学・勝見武教授、（一社）環境地盤工学研究所・嘉門雅史理事長と共に、大阪ベントナイト事業協同組合が地盤工学賞を受賞

人材活性化につながる働きやすい環境づくり

大幸グループでは、環境・社会貢献につながる持続的成長と、人材活性化に向けた「組織改革」、部署や組織間の連携を強め、目指す方向性を共有する「意識改革」を進めています。

また、スタッフ一人ひとりがモチベーションを高め、能力を伸ばし、安心して働ける社内環境づくりに向けて表彰・教育・福祉制度を設置。さらに、グループ・関連企業の親睦会や定期刊行物を通して情報共有と、組織力の強化・一体化を図っています。

従業員研修

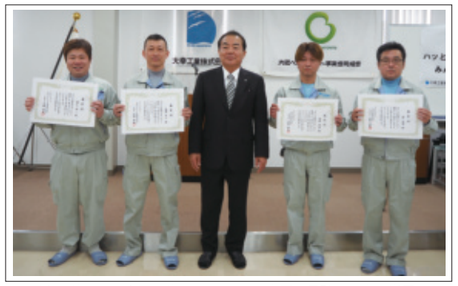
大幸グループでは、入社後に 3 カ月をかけて全部署の業務を学ぶ新入社員研修、役職者による大幸未来育成会をはじめとするセクションごとの研修、各プラントを統括する視点を育み相互活性化を図るプラント間の人材交換制度などを通し、各分野の人材育成に尽力しています。また、運行管理者など各種資格の取得を支援し、公正採用選考人権啓発推進員新任・基礎研修への参加を推奨。こうした人材育成プロジェクトにより、一人ひとりの意欲を引き出し、能力の開発と成功のチャンスを提供しています。

グループ内表彰

表彰制度を大幅に拡充

大幸グループでは、社会と環境に貢献できる、働きがいのある職場づくりを目指して、優良ドライバー表彰制度を拡充し、2017（平成 29）年より「優良従業員表彰」、また 2018（平成 30）年より、洗車に特別な努力を注いだ「ぴかぴか賞表彰」、「未然事故防止表彰」、「経費削減表彰」を実施しています。そのほか、永年勤続表彰（10 年・20 年・30 年）の制度を設置し、定年退職者に対しては、親陸会より感謝の気持ちを込めて記念品を贈呈。応募コンクールによる安全標語表彰も行っています。

■ 10 年勤続表彰



田上　伸一　　山田　修一　　安田　昌弘　　南　光男

■ 20 年勤続表彰

吉岡　甲二　和多瀬　昌広　　中橋　隆博　榎木　信二　土井　良介

■ 優良ドライバー表彰

土井　良介　　榊　聖一　　加井　彰人

※欠席（新宅　正治）

■ 優良従業員表彰

妹尾　妙子　　中村　実邦子　　岡本　有司　　小路　優

■ 定年退職記念品贈呈

西田　博幸　3 月 20 日付（勤続 18 年）

■ぴかぴか賞表彰

大手山　徳洋　　榊山　誠一　※欠席（山﨑　敏明）

グループ内表彰

■ 未然事故防止表彰

柿島　勇夫

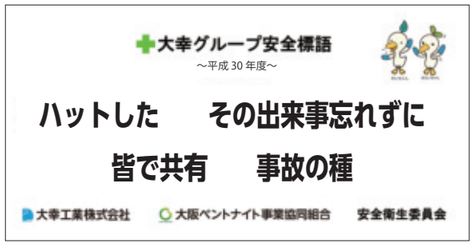
■ 経費削減表彰

最優秀賞「事務職」

優秀賞「南港処理センター」

■ 安全標語表彰

小路　優



大幸グループ安全標語「平成 30 年度」

関連企業親睦会

大幸グループおよび、関連企業の交流・懇親を目的に、2018 年秋の夕刻、大幸工業本社前にて合同親睦会を開催。大幸グループ・協力会の 75 人が一堂に会し、炭火焼き肉とビンゴ大会を楽しみました。また同年、グループ 50 余人が参加するボウリング大会を実施。こうした機会は、位置的に離れた事業所、企業、組織のスタッフが直接顔を合わせてコミュニケーションを深め、心を合わせる機会となっています。

ボウリング大会

定年後の再雇用・嘱託就業

「改正高年齢者雇用安定法」施行により、年金支給開始年齢の引き上げに伴う雇用環境の見直しが企業に求められています。大幸グループはこうした世情が一般化する以前から、定年後も事業を支える大きな力となる再雇用制度を導入し、 社員それぞれの希望も考慮しながら再契約の道を作ってきました。基本的に定年後の単年契約を 65 歳まで重ねる方式を採用し、能力・役割に応じた活躍を期待し、後進へ技能・知識・マンパワーを引き継ぐ基盤づくりに努めています。

大幸グループ こどもミュージアム プロジェクト

車両乗務員など従業員の子どもたちが、働く保護者を応援する絵を描き、優秀な作品を表彰、また、車両や施設の壁にラッピングするプロジェクト。お父さんのほか、タンクローリーやブロア車を描いた作品など、かわいい絵の数々が乗務員や周囲のドライバー、道行く人々を笑顔にします。ねらいは、安全な道路交通環境を築き、事故を減らすこと。2018 年夏に応募をスタートしたプロジェクトには、幼児から高校生まで広く参加しました。10 月に開かれた表彰式で、受賞の子どもたちは誇らしげな表情や、照れくさそうな表情を見せていましたが、それぞれ、働く家族の安全を強く願っています。

社長賞 1 人、優秀賞 3 人が賞された表彰式

社長賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

育児介護休暇

少子化時代の女性活用政策が注目されるなか、大幸グループは社員のライフサイクル、生活スタイルに最も適し、仕事と家庭生活の両立を容易にする育児・介護休暇制度を、その必要に応じて男女ともに提供し、社員が安心して就業できる環境と、仕事へのモチベーションの維持を図っています。特に配慮していることは、この制度をこだわりなく取得できる社内の理解と支援にあります。新生児の育児、お年寄りの介護、病にある家族への看護等、そのための所定時間外労働の免除、深夜業の制限、時間短縮その他について個別に相談し、正当な事由に基づくものに対してのサポート体制を築いています。

健康診断と人間ドック

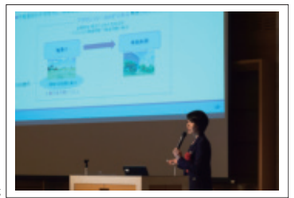
働き盛りの世代のみならず、近年では若い世代でもさまざまな疾病が現代生活の弊害として指摘されています。企業を支える人材の健康トラブルは大きな損失となりうるもので、これに対してはできる限りの備えが必要です。大幸グループでは、従業員、協力会従業員の潜在疾患の早期発見、予防、適切な治療へのルートとして、健康診断 (特定健診・特定保健指導) だけではなく、人間ドックの利用推進にも力を注いでいます。しっかりとした検診を受けようとすると、ともすれば高額な負担がかかる人間ドックですが、その負担の大部分を企業として補助し、気軽に利用できる体制を整えています。このシステムは特に社員、そしてご家族に人気が高い福利厚生の一つとなっています。

大幸グループ通信

大幸グループ全体の情報共有を目的とした情報誌を、隔月サイクルで刊行しています。掲載内容は、私たちの関わる環境事業の現況と今後の方向性、地域の情報、行政の指導や指針の紹介、関連企業の最新情報などについて。すべてのスタッフと、その家族に向けて、環境事業内容と目指すベクトルについて広報を行い、グループ・関連企業の一体化と環境啓発に努めています。

情報や課題を共有し、連携して歩む

大幸グループは 1994 年、つながりの強い企業の大同団結と、その資質向上を目指して「大阪ベントナイト事業協同組合 環境対策協議会（KTK）」を発足させました。現在、同組合の施設利用企業やこの活動に賛同する企業など、107 社（2018 年 12 月現在）が会員として参加。その多様な力を集約して、環境問題や廃棄物業界の課題を共有し、会員の技術、知識、モチベーションの向上に取り組んでいます。また、地域社会を含むステークホルダーの皆様への貢献と連携を目指して活動を続けています。


（株）FINEV 光成　美紀氏

活動内容

国の環境対策の方向性、リスクマネジメントなど、個々の企業単独では入手しにくい情報の共有をはじめとし、下記活動を定期的に実施しています。

- 新年研修会・互礼会
  - 「桂　米朝」門下『桂　勢朝』氏
- 総会・講演会
- 夏期研修会
  - 三方よし経営の今と土壌汚染対策
    （株）FINEV 光成　美紀　氏
- 施設見学会 2018（平成 30）年度 施設見学会：
  - （株）津軽バイオマスエナジー「バイオマス発電事業、発電システムによる栽培施設」（青森県）
- ゴルフコンペ等の懇親会

第 19 回 KTK ゴルフコンペ

新年互礼会

- 社会的活動等に寄与した会員企業及び社員の表彰
- 地域貢献・コミュニケーション活動
  （KTK 道路清掃美化キャンペーン等）
- 優良産廃処理業者の認定取得・許可申請支援
- ISO14001 認証

【環境対策協議会　青年部】

会員各社の次期社長候補を中心に構成する青年部では、研修会・見学会等の活動を通して、相互理解・共栄発展・モチベーションアップを目指します。

活動内容

研修会や行事を通じて研鑽（けんさん）・親交を重ねるほか、KTK 諸会合の設営など裏方の役目も担い、定期的に下記活動を実施しています。

- 総会
- 研修会
  - 今から出来る事業継承と落とし穴
    岩本司法書士事務所　岩本　健熙氏による講演
- 施設見学会
  2018（平成 30）年度 施設見学会
  - 街クリーン株式会社（沖縄県）

- ボウリング大会、ゴルフコンペ、釣り大会等の懇親会

ボウリング大会

KTK 防災対策実行委員会 発足

「大幸グループ津波避難ビル兼車輌センター」（仮称）」の建設着手を契機とし、大阪ベントナイト事業協同組合 環境対策協議会（KTK）では、地盤工学の専門家・乾 徹大阪大学教授を委員長とした「KTK 防災対策実行委員会」を開設。想定される南海トラフ地震、不測の自然災害などに備え、2018 年 11 月 6 日に第 1 回防災訓練＊を実施しました。

※9 月 5 日の『大阪 880 万人訓練』に協賛、実施の予定を、台風 21 号の影響で延期。

マグネシウム空気電池を使って充電

携帯用「大幸グループ緊急時対応マニュアル」の説明

委員長就任の乾徹大阪大学教授（右）と、浜野廣美代表理事（左）

＜共振現象を学べるオモチャ紙細工「地震ゆらゆら」を作成＞大阪大学乾徹研究室と協同で製作した教材「地震ゆらゆら」作成ツールを使って、防災訓練参加者が地震の揺れについて学びました。

緊急地震速報専用受信機のレクチャー

防災訓練の開催に当たり、浜野廣美代表理事は「大幸工業本社周辺は埋立地で海抜が低い。皆様方の生命を守るため、津波避難ビルの必要性を検討し、車輌センターを兼ねた建物の建設を決定。これを機に防災対策実行委員会を組織した。防災意識を共有する実践的な対策を進めていきたい」と挨拶しました。

続いて、このほど就任した乾委員長が、「緊急時には想定外の出来事が多く発生するので、避難訓練によって想定できる対応をルーチン化し、現場の判断力・実行力を高めることが重要。東日本大震災では、約 6 割の建設業者が地震当日に事業を再開し、社会機能の回復に当たったという統計がある。当委員会の取り組みに大きな意義を感じる」と述べました。

その後、緊急速報やエリアメールの受信設定、従業員とその家族などに配布する「大幸グループ緊急時対応マニュアル」の必要事項記入、マグネシウム空気電池を使っての携帯機器充電などを実践。

今後、地域合同訓練も視野に入れて実践的な活動を展開し、地域と共に防災に努める体制の維持・向上を目指します。

揺るぎない環境理念に根ざして

2018 年 (平成 30 年) 度の大幸工業株式会社・大阪ベントナイト事業協同組合の環境方針が示され、地球環境の保全・循環型社会構築を目指して、事業の主軸を据え組織強化を図り、顧客サービスをさらに充実することが改めて確認されました。

年度方針・環境方針

社長方針

「感謝」

一、 お客様に感謝
一、 職場に感謝
一、 仲間に感謝

環境方針

私たちは、地球の環境保全、持続可能な社会の実現が人類共通の最重要課題であることを認識し、廃棄物の適正処理および、リサイクル技術及びリサイクルシステムの研究開発に取り組み、循環型社会の形成に貢献します。

ISOスローガン

「考えよう 一人ひとりができるエコ」

1 安全・安定操業の確保

① 教育・訓練を充実し個々のレベルアップを図る。
社外研修会等へ積極的に参加しレベルアップを図る。

② 事故・トラブルの原因を徹底究明し再発を防止する。
事故事例検討会を実施し類似事故の再発を防止する。

2 組織の強化と業績改善の推進

① 法令順守と情報公開
・ホームページ等での情報公開を推進し企業イメージのアップを図る。
・電子マニフェスト化の推進等により法令順守意識の高揚を図る。

② 業績改善の推進
・業績改善提案制度を推進し、全員参加で業績改善に取り組む。
・ISO 活動を継続し、業務の標準化と文書管理の簡素化を推進する。
・リサイクル製品の品質向上を図り、顧客満足向上に努める。

3「地球を大切に」を合言葉に、循環型社会の構築を推進する。

① 車輌・重機の燃料効率の向上
エコドライブの実践 ― 急発進・急加速防止・アイドリングストップ
「もったいない運動」の推進 ― 紙使用削減・電力使用削減

② 地域との共存共栄の推進
・道路美化運動等に積極的に参加し、地域貢献に努める。

4 顧客サービスの充実

① 顧客ニーズに対応した処理システムの開発 3R、
コスト削減等の顧客ニーズに即応したリサイクルシステムの開発を推進する。

環境マネジメント・認証取得

ISO 取得状況

大幸グループは、総括的な企業風土、社員個人の社会的貢献意欲を含めたあらゆる側面において、「地球・産業・暮らしの調和」を目指しています。こうした指針により、業界に先駆けて ISO9001、ISO14001 の認証を取得し、環境マネジメントの社内体制を整備。リデュース・リユース・リサイクルの徹底を図るとともに、地球環境保全に役立つ技術と製品の開発に努めています。

内部環境監査

ISO9001、ISO14001 取得を早期に果たした大幸グループ各事業所では、環境マネジメントシステムの PDCA サイクルに基づき、内部監査を実施。環境実績の組織的・継続的な改善システム、実績向上の推移、法規制順守などに関する審査を実施しています。

外部環境監査

内部環境監査に加え、環境マネジメントシステムの有効性を確認するため、認証機関のオリオン・レジストラー・ジャパンによる監査を受けています。例年、審査結果をもとに指摘事項の改善を実施し、環境マネジメントシステムの有効かつ適正な運用によって認証登録を更新しています。

第三者意見

『災害に強い』大幸グループを目指す決意に期待いたします。

2018CSR 報告書では、事業を永続し従業員を守っていくために『災害に強い』大幸グループを目指しておられます。その先駆けとして、南海トラフ地震を想定し、大阪ベントナイト事業協同組合　環境対策協議会（KTK）内で防災対策委員会を設置して防災訓練を開催したことが報告されています。防災訓練にあたり浜野廣美代表理事は、車輌センターを兼ねた津波避難ビルの建設を決定し、防災意識を共有する実践的な対策を進めて行きたいと挨拶され、地域合同訓練も視野に入れて実践的な活動を展開し、地域とともに防災に務める体制の維持・向上を目指しておられます。

この災害に備えた投資には、『静脈産業』である廃棄物・リサイクル処理業界が製造業などの『動脈産業』の事業活動に影響を与えない、という強い決意が感じとれます。地震や台風など予期せぬ災害に備えた BCP(Business Continuity Plan) の具象化を目指した一歩ととらえることができます。

CSR 報告書では、従業員研修などの企業内教育や KTK 道路清掃美化キャンペーンなどのボランティア活動、市民参加の寄せ植え教室などの文化活動、そして近畿大学生のインターシップや新北島中学中学校生徒の職場体験による学校教育まで、地域貢献への参加や社内環境教育の拡充、地域住民の美化意識の向上、環境教育の推進といった環境事業を理解する成果が読み取れます。今後も環境問題やごみ拾いに興味のない人たちにも参加してもらえるような、さらなる取り組みを期待します。

最後に、一人ひとりが高い社会貢献意識を備え、日々成長できる職場環境を目指していることは、循環型社会においてますます必要不可欠で、健全で強い組織作りの要になると考えられます。大幸グループのさらなる発展に期待します。

京都大学大学院
地球環境学堂 教授　**勝見 武**

環境負荷に対する活動の目標と実績

地球環境の将来を考え、その基盤となる事業を推進する企業として、事業推進で生じるさまざまな環境負荷に対しては、全社、あるいは事業所、部署ごとでの課題を抽出し、年度ごとの取り組みを進めています。

2018 年目標とその成果

部門	目　的	目標値	具体的実施方法	評価
南港処理センター	作業員のレベルアップ	社外研修の参加	社外セミナーの参加	☆☆
	用水使用量削減	前年同月比1％削減	構内散水の節約	☆☆☆
	無事故無災害	1年間無事故無災害	毎月事故件数をゼロにする	☆☆☆
	顧客満足度の向上	顧客クレームゼロ	作業手順書の厳守	☆☆☆
	法規制の順守	排出基準値クリアー	pH 監視強化	☆☆☆
	法規制の順守	受入基準値クリアー	定期分析による監視	☆☆☆
泉プラント	薬品使用量削減	前年同月比1％削減	長時間養成	☆☆☆
	品質確保	社内基準の順守	内部、外部分析	☆☆☆
	顧客満足度の向上	顧客クレームゼロ	作業手順書の厳守	☆☆☆
	法規制の順守	搬入基準値クリアー	品質検査の実施	☆☆☆
堺プラント	再生砂販売業務の向上	再生砂の回収率2％向上	洗浄・篩の徹底	☆☆
	重機の延命化	重機の故障をゼロにする	定期清掃、点検の強化	☆☆
	顧客満足度の向上	顧客クレームゼロ	作業手順書の厳守	☆☆☆
本社	電力使用量削減	前年同月比2％削減	冷暖房温度設定管理	☆☆☆
	省資源	前年同月比2％削減	コピー用紙使用量の削減	☆☆
運輸部	車輌の延命化	車輌の故障をゼロにする	定期清掃、点検の強化	☆☆
	顧客満足度の向上	顧客クレームゼロ	作業手順書の厳守	☆☆☆
	安全安定操業の確保	無事故無災害	作業指示書による順守事項の徹底	☆☆☆
	重機燃料使用量削減	前年同月比2％削減	アイドリングストップ	☆☆

☆目標未達成 ☆☆目標ほぼ達成 ☆☆☆目標達成

環境データ

泉プラント

中間処理場排出汚泥の化学測定結果

項　目	単　位	産業廃棄物法基準	最終処分場受入基準	測定値 最大値	測定値 最低値	測定値 頻　度
カドミウム	mg／ℓ	0.09	0.09	<0.01	<0.01	1回／月
鉛	mg／ℓ	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1回／月
6価クロム	mg／ℓ	1.5	0.5	<0.05	<0.05	1回／月
砒素	mg／ℓ	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1回／月
セレン	mg／ℓ	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1回／月
熱灼減量	%	ー	15	9.6	2.0	1回／月

南港処理センター

項　目	単　位	産業廃棄物法基準	最終処分場受入基準	測定値 最大値	測定値 最低値	測定値 頻　度
カドミウム	mg／ℓ	0.09	0.09	<0.01	<0.01	1回／月
鉛	mg／ℓ	0.3	0.3	<0.02	<0.01	1回／月
6価クロム	mg／ℓ	1.5	0.5	<0.05	<0.05	1回／月
砒素	mg／ℓ	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1回／月
セレン	mg／ℓ	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1回／月
熱灼減量	%	ー	15	8.9	4.6	1回／月

リサイクル活動

■使用済み切手の回収

使用済み切手も、キロ単位の重さになると換金され寄付に用いることができます。回収された使用済み切手は、ボランティア組織を通して切手商、そして切手コレクターの手に渡ります。つまり、新たな価値を生み、換金により困った人々の役に立ちます。私たちは、資源の新たな可能性と価値の発見に取り組む企業として、身近なすべてのものを注意深く見つめています。

■ダンボールの回収

事務用品や衛生用品の梱包材など、事業活動で発生するダンボールも環境資源と考え、2014 年からリサイクル活動をスタートしました。

2018 年度（1 月～12 月）は 1.260kg のダンボールを再資源化。備品・消耗品の荷ほどき後、ダンボールを所定の位置に運ぶという「ひと手間」の慣習化により、従業員の環境意識が高まりを見せています。

企業活動を通し、安心・安心な社会に

産業廃棄物の再資源化及び適正処理。事業そのものが CSR 活動といえる大幸グループでは、安全衛生、危機管理、セキュリティといった多分野において積極的にコンプライアンス活動を展開しています。

労働安全衛生活動

大幸グループの安全衛生への取り組みは、朝礼と、報告・連絡・相談・確認の徹底、そして的確なマニュアルを基にした柔軟な現場対応、特に責任意識の徹底に重点を置いています。マニュアルがたとえ完成されたものであっても、それに全てを依存するのではなく、臨機応変に対応する、体で判断するということが危機管理には必要不可欠な要素であるからです。特に弊社の場合、プラント、各部署によってさまざまな業務の事情、状況があります。それぞれのプラントだけでも、取り扱う物や処理薬などで対応すべき課題は違います。

具体的には各プラントの処理業務に応じた、的確で即時性のある危機管理体制を目指し、作業着・靴・手袋・マスク等着用といった基本的な作業姿勢、熱中症対策として水分・塩分補給の徹底、状況に応じた管理体制をそれぞれが目的意識を持って取り組んでいます。

リスクアセスメント

業務には絶えずさまざまな危険要素が付きまといます。その危険度に応じた評価を判定し、危険要素への対応策に優先順位をつけて意識確認しています。営業活動の段階でも、危険を伴う処理の契約時には危険物の存在と状況の説明、受け入れ場所やドライバー等の条件に基づいた処理要領、危険度に応じた対応を確認しています。また、事故発生時の各責任者の対応マニュアルについては、熟練の現場担当者が主体となって作成することになっています。

コンプライアンス教育

コンプライアンスは一般に法令順守と解釈されていますが、法の規定だけに囚われることにより規制のみを掛けられると、企業としての発展性は損なわれかねないでしょう。法の精神は守るべきとして、単純な社内制度化ではなく、組織が何をビジョンとして機能しているのかを社員全体が理解し、未来につながる企業へと成長していかなければなりません。

時として企業活動を損なう反社会勢力に対しては、専任の担当者を配置して万全の体制を整えています。

また、新聞等の事件事例をもとに具体例から周知徹底し、社員への教育・啓蒙活動を頻繁に実施しています。

特に車輌運行では、ドライバーとしての責任と自覚を促し、弊社の名前を刻んだ車輌を運行しているということの重要性、状況に応じた適切な対応を説明しています。

情報セキュリティ

情報通信の進化によって、情報管理の重要性が高まっています。情報漏えいに関しては、企業としても自己防衛の体制をとっていくことが必要になっています。

個人情報保護法など法令による規制はあるものの、やはり社員全員が自覚をもって大切な情報を保護しなければなりません。弊社は情報の管理をブロック単位で行い、その責任体系を明確にするとともに、必要な情報の共有という課題に取り組んでいます。

大幸グループ事業概要

大幸工業株式会社
本　　社
〒559-0025　大阪市住之江区平林南2−8−37
TEL 06-6686-0001
FAX 06-6686-0002

東京支店
〒105-0003　東京都港区西新橋1−18−6
クロスオフィス内幸町12階
TEL 03-5501-1370
FAX 03-5501-1371

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬
浚渫工事の施工及び請負　流動化処理土の販売
一般貨物自動車運送事業　特定旅客自動車運送事業
土木、建築工事の施工及び請負　各種清掃業

大阪ベントナイト事業協同組合
〒559-0025　大阪市住之江区平林南2−8−37
TEL 06-6686-0003
FAX 06-6686-0004

汚泥・廃酸・廃アルカリの中間処理、流動化処理
組合員の取扱う汚泥の共同処理
組合事業の知識普及をはかるための教育・情報提供

堺大幸工業有限会社
〒590-0063　大阪府堺市堺区中安井町3−4−10
TEL 072-238-3059

建設汚泥の収集運搬
土木、建築工事の施工及び請負

大幸工業株式会社 泉佐野
〒598-0001　大阪府泉佐野市上瓦屋661番地1
第2リヒトビル302
TEL 072-429-9147
FAX 072-429-9146

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬
浚渫工事の施工及び請負　一般貨物自動車運送事業
ビルメンテナンス業

有限会社大幸リース
〒559-0025　大阪市住之江区平林南2−8−37
TEL 06-6686-0005
FAX 06-6686-0006

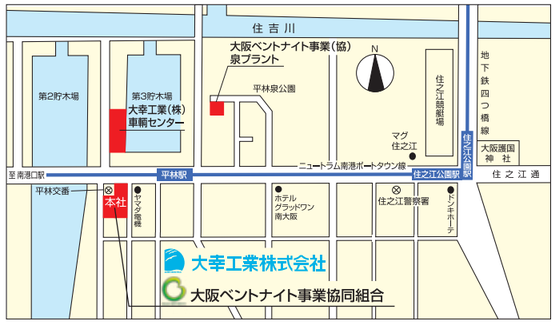
機械のリース
運搬車両のリース

北部大幸工業有限会社
〒541-0043　大阪市中央区高麗橋4−5−13
TEL 06-6226-0882

建設汚泥の収集運搬土木、建築工事の施工及び請負

大幸工業株式会社
本　　社　〒559-0025　大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0001　FAX 06-6686-0002
東京支店　〒105-0003　東京都港区西新橋1丁目18番6号
クロスオフィス内幸町12階
TEL 03-5501-1370　FAX 03-5501-1371

大阪ベントナイト事業協同組合
本　　社　〒559-0025　大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0003　FAX 06-6686-0004



大幸グループ2018CSR報告書 アンケート

大幸グループCSR事務局宛　E-mail:sea-mew@daiko-group.com
FAX:06-6686-0002

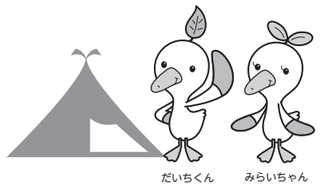
皆様のご意見・ご感想を、今後の活動や報告書作成に生かして参ります。
お手数ですが、下記のアンケートにご回答頂き、FAX やＥメールなどでご返送頂ければ幸いです。

Q1. この報告書をどのようにしてお知りになりましたか。

□当社からの送付　□当社ウェブサイト　□当社以外のウェブサイト　□当社社員から
□セミナー・講演会　□その他［　　］

Q2. 大幸グループ 2018CSR 報告書についての評価をお聞かせ下さい。

1. 全体的な印象	□良い	□普通	□悪い
2. 分かりやすさ	□分かりやすい	□普通	□分かりにくい
3. 内容の充実度	□充実している	□普通	□物足りない
4. 情報量について	□適切	□不足	□多い
5. デザイン	□良い	□普通	□悪い



＊悪かった点、分かりにくかった点等をお聞かせ下さい。
（　　）

Q3. この報告書の中で関心をお持ちになった内容をご選択ください。（複数選択可）

□大幸グループのビジョン　□Top Message　□特集1／「大幸グループ津波避難ビル兼車輌センター」（仮称）建設開始
□特集2／若手社員の CSR 意識と職場環境　□大幸グループの処理施設
□大幸グループ事業概要　□社会・地域貢献　□社内環境整備と人材育成　□環境対策協議会（KTK）の活動
□KTK 防災対策実行委員会発足　□環境方針・認証　□環境負荷軽減
□労働安全・コンプライアンス活動

＊その理由をご記入ください。（　　）

Q4. 大幸グループのCSR活動や報告書について、その他ご意見・ご感想などがあればご記入ください。

Q5. あなたのプロフィールについてお聞かせ下さい。

・お読みになった立場　□お客様・お取引先　□企業のCSR・環境ご担当者　□当社グループの近隣にお住まいの方
□行政機関　□金融・投資機関　□NPO・NGO　□研究・教育機関　□学生
□報道機関　□当社グループ社員・家族　□その他［　　］
・年代　□10 代　□20 代　□30 代　□40 代　□50 代　□60 代　□70 代以上
・性別　□男性　□女性

Q6. 次回の CSR 報告書の発送を希望されますか。

□はい　□いいえ

ご協力ありがとうございました。差し支えなければ下記にもご記入ください。
※次回の CSR 報告書の発送を希望される方は、お名前とご住所を必ずご記入ください。

お名前　　ご職業（勤務先・学校名）　　連絡先電話

ご住所（□ご自宅　□勤務先等）　〒

メールアドレス

ご記入頂いた個人情報及び内容は、今後の CSR 活動の参考のみに利用し、他の目的には利用いたしません。

（切り取り線）

DAIKO GROUP

大幸グループ2018CSR 報告書

アンケートへのご意見、ご感想を お聞かせください

大幸グループ2018CSR
報告書をご覧頂き、
ありがとうございました。
皆様からご意見・ご感想を
お聞かせ頂き、
弊社の企業活動及び今後の報告書づくりに
活かして参りたく思います。
お手数ですが、裏面にご記入の上
お送り頂ければ幸いです。

FAX:06-6686-0002

【お問い合わせ先】
大幸グループ CSR 事務局
〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0001　FAX 06-6686-0002